

令和2年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■今年度の重点目標

・感染症対策および対策マニュアル作成

・運営基本計画の策定推進

・耐震補強工事・耐震設計の推進

項目	令和2年度実績	令和元年度実績	平成30年度実績	平成29年度実績
総入園者数	68,267人 (目標達成率 50.2%)	96,237人 (目標達成率 72.9%)	111,841人 (目標達成率 86.0%)	116,772人
有料入園者数(有料率)	33,355人(48.8%)	44,174人(45.9%)	47,994人(42.9%)	52,117人(44.6%)
外国人入園者数	1,597人(前年比 23.3%)	6,847人(前年比 95.2%)	7,191人(前年比 113%)	6,342人(前年比 107%)
総入園料収入	13,210,760円	16,887,600円	18,634,800円	20,352,300円
WEBサイトアクセス数 (英語版)	478,750件 (11,261件)	607,819件 (41,396件)	640,151件 (47,426件)	775,221件 (49,442件)
来園学校数	76校	132校	192校	193校
伝統工芸館藍染体験参加者 数(伝統工芸館事業収入)	991人 (3,615,572円)	1,956人 (4,126,668円)	3,029人 (4,659,645円)	3,233人 (4,251,612円)

令和2年度

1 保存・研究・展示・普及活動

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

現状：25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業は、消火設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の目録刊行が終了し、資料の保管状況の改善の検討、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和2年度年度計画(目標水準)	令和2年度実績	今後の課題	評価
1文化財建造物維持管理の推進	清宮家住宅の屋根替え(工事完成まで) 広瀬家住宅・太田家住宅敷地舗装工事(完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時) 展示古民家の周辺環境の改善(園路排水整備・支障木管理の推進)	清宮家住宅屋根替え工事(完成まで) 広瀬家住宅敷地舗装、排水路工事(完成まで) 屋根ほか小破修繕(破損箇所随時) 鈴木家修理工事設計(完了まで) 佐々木家周辺舗装設計(完了まで) 支障木管理(2年目)	清宮家住宅屋根修理工事完成 広瀬家住宅敷地舗装、排水路工事完成 山下、野原、作田、江向、北村屋根差茅補修完了 鈴木家修理工事設計完了 佐々木家周辺舗装設計完了 支障木管理実施(2年目)	園路工事中の迂回路の確保	A
2総合防災事業・耐震補強工事の推進	太田家耐震補強工事(完成まで) 作田家耐震補強設計(完了まで) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各1回)	太田家耐震補強工事(初年度分まで) 作田家耐震設計(基本設計・実施設計まで) 三澤免震装置定期点検(1回) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回)	太田家耐震補強工事は入札不調により翌年度繰越 作田家耐震基本設計・実施設計完了 三澤免震装置定期点検実施(1回) 消防設備点検実施(2回)、補修実施(給水ポンプ他) 監視カメラ点検実施(1回)、補修実施(カメラ・サーバ他)	工事車両のアクセス路の確保 耐震工事完成までの応急的補強	B
3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	大岡資料整理(保管状況改善) 民俗資料のデータ化推進(収蔵品目録未収録資料) 民家園叢書継続刊行(山下耐震補強工事報告冊刊行) 「暮らしと家」調査(報告書年1冊刊行) 本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回)	大岡資料目録未収録分の整理(分類まで)	民俗資料カードデータ入力	資料の収蔵場所の検討	C
評定意見	<p>全国的に茅葺を主にした保存修理工事の施工が年々困難になってきている。需要が減りつつある世情ではやむを得ない面があり、市条例に基づく一般建設工事と同じ入札方法では難しくなるのではないかと懸念される。入札不調による着工の遅れが、玉突きで以後の保存修理工事の遅れにつながることも懸念される。そろそろ伝統技術の保存の立場から対策をすべきであろう。まずは茅場の確保、特定の専門業者(茅葺施工者)の実態など、現況を調査する時期に来ているように思われる。建造物の屋根は部分補修がかなり実施はされているが、傷みの激しい屋根がまだまだ散見される。本格修理の時期まで持たせるために日常的な維持管理は燻煙清掃だけでなく、劣化個所のチェックも必要であり、こまめな補修が望まれる。</p> <p>収蔵資料の整理・調査研究活動は、資料保存、展示などの資料活用へとつながる博物館活動の核であるから、少人数での組織運営は職員がさまざまな業務を分担せざるを得ないのは理解するが、学芸員が専門分野の業務にきちんと取り組める体制を整えることが大切であり、少しずつでも進捗させるよう努めてもらいたい。</p> <p>令和2年度に関しては新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)拡大の世界的な問題下であり、問題発生以前の計画と問題発生後の計画遂行状況が一概に比較できない状況を勘案すると、評価を下すのは難しい。計画に対する実績としての評価は低くせざるを得ない項目があったが、現有の職員体制で、コロナ拡大防止対策で関連業務に対応せざるを得ず、通常業務にしわ寄せが生じ、計画通り進捗させられなかった事情は十分に理解でき、その中でできることは実施できていたと思われる。</p>				

(2) 展示の充実

現状：25の文化財建造物を野外展示し、それを補うために本館に常設展示室と企画展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替え工事や耐震補強工事なども展示の一環としてとらえ、作業風景を見せるための工夫をしている。常設展示室では、園全体の導入として日本の民家建築の基本を展示している。企画展示室では、民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催し、合わせて関連事業を実施している。展示に際しては解説に英文を併記している他、スマートフォンを利用した4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人向けのサービスにも力を入れている。また、敷地内の環境は展示の一環として整備を進め、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和2年度年度計画(目標水準)	令和2年度実績	今後の課題	評価
1常設展示及び関連事業の充実	音声ガイドの利用拡充および保守(毎年保守委託) 古民家内展示整備(視覚に訴える展示の検討) 建造物解説の充実(古民家めぐり年24回、大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置) 博物館にふさわしい植栽の整備(生田緑地の植栽管理計画の中に位置づけ)	音声ガイド保守、利用方法広報 古民家めぐり実施 工事見学会実施(1回) 工事解説パネル設置(屋根葺き替え、耐震補強工事実施時) 古民家の旧所在地に合わせると同時に生田緑地の植生に配慮した植栽整備(植樹と育成) 展示・催事等に使用する植物種の整備(植栽と育成) 花の咲く植物の充実(季節に合わせ随時)	音声ガイド保守実施 古民家めぐり実施(20回) 工事解説パネル設置(清宮家屋根葺き替え工事) 旧所在地植生に配慮し高倉周辺のソテツ・シダ類を残し針葉樹実生を除去 小正月催事にニワトコを育成採取 季節に合わせアジサイ・ヒマワリ・ヒョウタン・ヘチマ・コスモスを栽培、ノラボウナを育成中 生田緑地植生管理計画に位置付けるための調査受け入れ	古民家内の展示充実 観光資源としての植栽の検討 解説板の定期的な修繕	B
2企画展示及び関連事業の充実	民家博物館として、特性を活かした話題性のある企画展示開催(年2本)	新企画展1本開催(印刷物刊行まで) 一般向け企画展示解説 子ども向け企画展示解説	企画展示「暑さ寒さも彼岸まで一民家と四季」開催、図録・民家園だより刊行 一般向け企画展示解説(8回) 子ども向け企画展示解説(5回) 博物館実習生企画の展示解説(2回) 子ども向けワークシート(1回) 企画展連動の古民家内展示(3回)	ユネスコの無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技」の企画展示化	A
評定意見	<p>コロナ下で教育普及活動が制限される中、少ないスタッフで臨機の対応を行い、実施方法に工夫しながら「できることを進めていく」姿勢で、計画に則って業務を進めた点は共感を持って、評価できる。</p> <p>企画展は日本民家園の特性を十分に活かした内容であり、図録も充実している。刊行物は成果が形として残るので続けて欲しい。25の文化財建造物はそれぞれ建築史上、建築技術史上、重要な情報を持っている。例えば民家の正面縁側の発生と変化について注目した場合、清宮家、太田家、伊藤家、北村家、菅原家、原家等を通して「縁のない状態＝清宮家・太田家」、「置き台のような縁＝伊藤家」、「濡れ縁＝北村家」、「雨戸が縁の外につく内縁の状態＝菅原家」、「雨戸もガラス障子も縁の外側につく完全な内縁＝原家」の順に発展していく様子が確認出来る。こうしたことを事業の一つとしてもっと情報発信できるのではないかと考えられる。一方で、任用方法により在任期間が短いスタッフがいる。スタッフの業績を無駄にすることなく積み上げて、レベルアップできるようにすることが望まれる。</p> <p>植栽整備は四季を通して咲く色々な花木を充実して欲しい。花がない時期の園内は殺風景に見える。植栽整備に力をいれていたで、これから来るお客様に喜んでいただけたと思われる。一方、植栽は自然災害に密接しているため、特に民家の周囲の植生計画に関しては民家に悪影響を及ぼさないものであること、また民家と一体となった生活の場として見せるための植栽であることも望まれる。</p>				

(3) 教育普及活動の充実

現状：教育普及活動として学習講座・体験講座等を実施、特に子どもや親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業にも力を入れ、各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の体験学習や中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、炉端の会・民具製作技術保存会は民家園の教育普及活動を支え、協力者会議を開催して事業運営の改善を進めている。指定管理者は伝統工芸館の充実を進めている他、さまざまな自主事業を行っている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和2年度年度計画(目標水準)	令和2年度実績	今後の課題	評価
1 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	当日受付型・自由参加型事業の充実(年平均25回) 生田緑地他館等との連携事業の充実(年平均2回) 旧所在地交流事業の実施・拡充(4自治体) 伝統芸能公演での外国人向け解説の実施(年2回) 市民団体との連携による昔話公演(30回)	感染症の流行に合わせた普及事業の実施 当日参加型体験事業 科学館との連携行事 旧所在地交流事業(2自治体) 伝統芸能公演における英語版解説シートの配布 昔話公演開催	感染症対策を行いながら昔話・正月飾り体験講座実施(各1回) 科学館との連携し七夕行事実施 甲州市と旧所在地交流事業実施(枯露柿展示) 昔話公演、燻煙等の動画制作、市のYouTubeチャンネルで公開 歌舞伎公演に替え、博物館実習生による船越の舞台特別公開実施	感染症流行下における教育普及事業実施方法のさらなる検討	B
2 学校連携の充実	学校団体の体験・見学(年間80校) 職業体験・総合学習等のプログラム受け入れ(年10校) 新学習指導要領対応プログラムの実施(運用開始) 学校郷土資料室等整備支援(メンテナンスの実施)	感染症の流行に合わせた学校向けプログラムの実施 学校郷土資料室等整備支援(メンテナンス実施 2校)	体験は休止し、職員によるレクチャー実施(18校) 中野島小学校、虹ヶ丘小学校郷土資料室展示メンテナンス実施 博物館実習生受入(13校、19名) 学芸員課程の大学生向けレクチャー(4校)	感染症流行下における学校の受け入れ方のさらなる検討	A
3 市民活動団体との連携	炉端の会、民技会との連携の強化および両者との協力者会議による運営改善(協力者会議年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議との連携(年7回会議出席)	感染症に合わせたボランティアの運営協力者会議開催 炉端の会入門講座の実施 民技会新人研修(講師派遣) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議への出席・意見聴取	東京都の警戒レベルを目安に活動休止・再開を判断、活動時は感染症対策実施 協力者会議書面開催 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議への出席・意見聴取、メーリングリストに参加し情報提供	感染症流行下におけるボランティア、市民団体活動方法のさらなる検討	B

4伝統工芸館・自主事業の充実	本藍の継続的使用のため複数スタッフの技術向上(研修機会確保) 自主事業の充実(年5回以上) 外国人対応の充実(メールによる予約受付)	染織技術の研修受講 メールフォームを使った体験予約受付(実施まで) 草木染めと藍染めの新商品の開発(2点) ストール生地を使ったワークショップの実施 ミニ展示開催(5回)、展示品の販売(Tシャツ他) 絞り染め、型染め講座開催 体験講座での感染症対策(逐次) 工芸館藍染商品のブランディング	メールフォームによる体験予約開始 マスク・トートバッグ等新製品開発 藍染中心の福袋商品化、ふるさの納税返礼品として採用 感染症対策を実施しながらストールワークショップ、絞り染め・型染め講座開催 ミニ展示開催(5回)、展示品の販売 苔テラリウムワークショップ等自主事業開催、苔玉製作キット、薪販売 政府支給マスク藍染体験実施、広報	工芸館の熱中症対策(空調機設置)	A
評定意見	<p>計画立案時にはコロナの影響の拡大・長期化が見通せず、計画に未達成のものがあったのは事実であるが、コロナ対策から一部事業の中止や、ボランティア市民活動団体との連携事業の休止は、やむを得ない事情によるものと考えられる。</p> <p>コロナ対策の下での事業運営は、例年に比べ準備や実施の際の負担は大きかったはずであるが、その条件下で教育普及活動の実施に努めた点は、もっと評価されるべきである。また、そうした中で、従来とは別の切り口での教育普及活動の開発、実施等、新たな運営方法を試みた点は評価できる。ピンチをチャンスに変えるべく、ここで開発した手法・コンテンツは、コロナ下での一時的なものとして、今後も活用していくことが望まれる。</p> <p>コロナに対応した長期休園や事業の中止期間等も、できることを開拓するために普段できないことを積極的に進め、今後の企画・業務のための知識を蓄積する期間、代替業務として評価すべきである。その間のスタッフ各人の実績を、相互に確認・共有することが望ましい。</p> <p>活動が長期間休止となり、ボランティア等市民活動団体の会員の意欲も低下していると思われる。コロナ対策をとりつつ、園内ガイド、火焚きの実施など部分的にでも再開を目指してもらいたい。また事業休止により、会員のモチベーションの維持や、園との関係性の保持など、どのような工夫をしたか、検証されると良いと思われる。</p> <p>令和2年度は、改訂小学校学習指導要領実施初年度にあたり、学校団体の来園校数の減少は、教育課程の影響か、コロナによる校外学習の抑止によるものか、見極めが難しい面がある。市内にある貴重な文化財を生かした学習は、地元でしかできないことから、学校団体の来園が継続されるよう、学校側への働き掛けを積極的に続けるとともに、未だ収束しないコロナの下でも、来園・学習につながるよう、教育手法の開発、安全情報の発信等が望まれる。</p> <p>伝統工芸館の藍染製品が、ふるさと納税返礼品として採用されたのは望ましく、コロナの状況が改善したら、伝統工芸館の利用も積極的に促してもらいたい。</p>				

2 運営・管理活動

(1) 博物館経営の強化

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、維持管理(文化財を除く)・広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修への参加を促している。また、来園者数向上を目標に、リピーター確保のための工夫を重ねている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和2年度年度計画(目標水準)	令和2年度実績	今後の課題	評価
1運営体制の整備・研修の充実	民家園運営基本計画の策定(策定まで) 研修機会の確保(市職員年1回以上) 事業評価の実施と活用(毎年実施・公表)	運営基本計画の策定推進(基本的な考え方の決定、来年度予算確保まで) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 園内研修実施(異動・採用に伴い随時) 事業評価の実施と活用(R2年度分実施、R1年度分公表) 感染症流行下での業務継続方法検討(リモートワークの実施他)	運営基本計画の骨子決定、コンサルタント委託予算確保 庁内の各種研修参加 新任職員の園内研修実施 事業評価R2年度分実施、R1年度分公表 臨時休園期間にリモートワーク、園内整備実施	運営基本計画に盛り込んだ事業の計画的な実施 次期指定管理にむけた仕様書の検討	A
2広報の強化	民家園・生田緑地の効果的情報発信 英語HPの情報充実 オリンピック・パラリンピックに向けた広報の充実 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報 SNS・指定管理者協力会社ルートを活用した広報の充実 SNSによる拡散を意識した演出	年間パスポート情報の積極的な発信 駅貼りポスターの作成・掲出 公式Twitterによる日本語・外国語広報の充実 英語HPの継続的な更新 フォトスポットの設定(イベント開催時)	感染症対策として年間パスポートの情報発信と積極的販売 指定管理者構成企業のルートを活かした駅貼りポスターの作成・掲出 新たなキャラクターとして「みんかっば」開発、公式Twitter、フォトスポットで活用 英語HPの継続的な更新 民家園日より英語版配架(2回)	遊園跡地再開発に伴う緑地全体の広報の拡充	A
評定意見	<p>コロナ下でも運営基本計画の策定にむけた取り組みを進めたことは大いに評価でき、園の認知度や存在感のアップのためにも、来年度の計画策定が期待される。なお、計画は今後の園運営に中長期的に大きな影響を与えるため、十分に練って詰めの作業を進めることが望まれる。</p> <p>コロナ再拡大や大規模災害等に備え、園として業務継続計画を検討しておくことが望ましい。</p> <p>入園者数はコロナの影響もあるが、ここ数年は減少傾向がみられるので、アンケート結果等から来園者のニーズに応え、時代に合ったものを取り入れ、魅力のある施設を目指す必要があると考えられる。</p> <p>コロナ下で多くの博物館が、時間帯や地理的な制約なく在宅で利用できるウェブコンテンツの作成・公開を積極的に行っている。ウェブサイトを広報目的のみならず、在宅での楽しみ・学習を提供する手段として更に活用するための検討も望まれる。</p>				

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

現状：来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や一部土舗装化など対応を進めている。その他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和2年度年度計画(目標水準)	令和2年度実績	今後の課題	評価
1来園者サービスの向上	飲食サービス提供の在り方検討 休憩スペース改修(露天の全ベンチ改修) 継続的な商品開発(毎年2点) バリアフリー環境の充実	感染症に合わせた飲食サービスの提供(逐次) 休憩スペースの感染症対策(逐次) 感染症に合わせた窓口・ショップのレイアウト・ディスプレイ見直し(逐次) 新商品としてマスクの販売(販売開始まで) 障がい者用トイレの表示見直し(完了まで)	そば屋において客席の削減、向かい合わせ中止 本館内ベンチ撤去 レイアウト・ディスプレイ見直しによる窓口・ショップ導線変更 藍染マスク、アクセサリーの発売開始 障がい者用トイレの表示を「だれでもトイレ」に変更 原家入口補助階段大型化 本館長寿命化工事(今年度は外壁・自動ドア改修) 山下家、佐々木家にフリーWi-Fi導入	次期指定管理に向け、飲食サービス提供の在り方検討 シロアリ対策も含め、老朽化した木製ベンチのリニューアル	A
2危機管理体制の整備	園路危険箇所等整備による安全性の確保 危険箇所の点検、危機管理マニュアルの継続的増補、職員への徹底(毎年項目見直し、読み合わせ) 来園者と文化財の安全確保、案内等質の高い警備の実施(マニュアル作成) 防災訓練の実施(毎年4回) 災害発生時案内の多言語化(英文原稿作成)	台風通過後の危険木点検実施(毎回) 感染症対策の実施(逐次) 感染症対策マニュアル作成(完成まで) 警備員の感染対策実施(宿直場所確保) 新任警備員への研修(年1回) 防災訓練実施(年4回) 本館地下水流入防止対策実施(完成まで)	強風・豪雨・地震後の危険箇所点検 伝統工芸館周辺の危険木除伐 共用箇所の定期消毒、職員の検温等 感染症対策 防災マニュアルに感染症対策編追加 警備本部改修、宿直場所確保等警備員の感染対策 新任警備員への研修(1回) 防災訓練実施(4回) 本館地下水流入防止のため排水溝増設、停電時揚水ポンプ作動用発電機設置	感染症対策消耗品(マスク、消毒用アルコール等)の備蓄 多言語による有事対応カードの作成	A
評定意見	<p>コロナ対策は未知の体験で、厳しい対応をせざるを得なかったと思われるが、マネジメントとしては考えられることをよく試行し、成果を上げていると認識する。来園者サービスの一部低下も、非常時に来園者の安全を考慮した結果であり、理解は十分に得られると考える。今後は制限を段階的に解消し、早く来園者へのサービス提供を可能とすることが望まれる。</p> <p>コロナ対策は、状況に応じ見直しと更新が必要と考えられる。コロナ禍における開園ガイドライン等は、ホームページの目立つところに掲載する等、適切に周知すること。</p> <p>利活用で来園者ファーストは当然であろうが、そのことで文化財建造物の原形や価値を損なうようでは本末転倒であり、注意すること。</p> <p>植栽の伐採整理により、急傾斜地の土壌流出・崩落等の発生も懸念されることから、地盤への影響を考慮した計画とするとともに、危機管理マニュアルに関連項目を盛り込むことも、検討すべきである。</p>				